

連結決算ハイライト

2013年度 連結決算の概要

当社グループでは各事業にわたり積極的な営業活動を行った結果、営業収益は5,231億8千7百万円と、前連結会計年度に比べ79億6千3百万円の増加(前期比1.5%増)となりました。

これに伴い、営業利益は493億7千7百万円と、前連結会計年度に比べ52億5千7百万円の増加(前期比11.9%増)となったほか、経常利益につきましても420億6千1百万円と、前連結会計年度に比べ56億9千5百万円の増加(前期比15.7%増)となりました。また、当期純利益は250億4千8百万円と、前連結会計年度に比べ53億7千3百万円の増加(前期比27.3%増)となりました。

(単位:百万円)	2013年度	2012年度	増減額	増減率
営業収益	523,187	515,223	7,963	1.5%
営業利益	49,377	44,119	5,257	11.9%
経常利益	42,061	36,365	5,695	15.7%
当期純利益	25,048	19,674	5,373	27.3%

セグメント別の概況

運輸業 売上高構成比 32.4%	営業収益 172,698 百万円 (前期比 1.8%増)	営業利益 28,308 百万円 (前期比 7.0%増)	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道事業で定期・定期外ともに輸送人員が増加したほか、バス業や箱根工リアの各社も好調に推移しました。加えて、消費増税に伴う定期券等の先買いの影響などから増収増益となりました。
流通業 売上高構成比 42.5%	営業収益 225,171 百万円 (前期比 0.7%増)	営業利益 3,670 百万円 (前期比 3.7%減)	<ul style="list-style-type: none"> ● ストア業等でホームセンターが減収となったものの、「Odakyu OX」の新店開業や既存店の売上回復に加え、百貨店業で新宿店が好調に推移したことなどから増収となりました。一方、営業利益は百貨店業での費用増加などにより減益となりました。
不動産業 売上高構成比 11.3%	営業収益 64,466 百万円 (前期比 6.1%増)	営業利益 12,520 百万円 (前期比 20.7%増)	<ul style="list-style-type: none"> ● 不動産分譲業で住宅販売が堅調に推移し、販売戸数が増加したことなどから増収増益となりました。
その他の事業 売上高構成比 13.8%	営業収益 95,875 百万円 (前期比 0.4%減)	営業利益 4,706 百万円 (前期比 42.3%増)	<ul style="list-style-type: none"> ● ホテル業では宿泊部門を中心に好調に推移したものの、旅行業やビル管理・メンテナンス業などが減収となったことなどから全体では減収となりました。一方、営業利益はホテル業での減価償却費の減少などにより増益となりました。

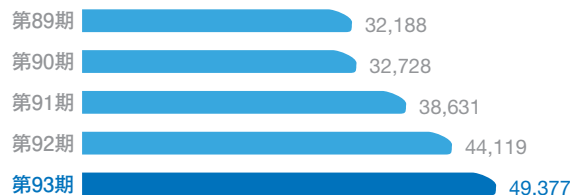
※売上高構成比は外部顧客に対する売上高に基づき算出しています。

連結業績の推移

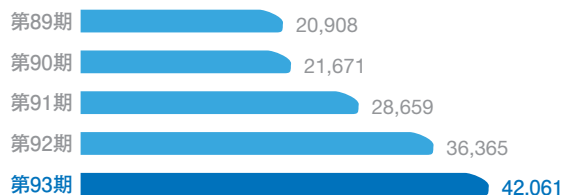
□ 営業収益 (単位：百万円)



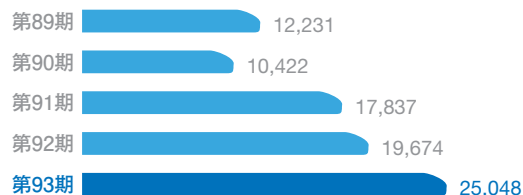
□ 営業利益 (単位：百万円)



□ 経常利益 (単位：百万円)



□ 当期純利益 (単位：百万円)



2014年度の見通し

4月の消費増税に伴う消費マインドの冷え込みによる影響が懸念されるなど、先行きは不透明な事業環境であると考えております。このような認識のもと、当社の連結業績予想については、消費増税の影響等により運輸業、流通業で減収を見込むことに加え、不動産業で住宅販売戸数の減少などを見込むことなどから、営業収益は5,153億円(前期比1.5%減)を見込んでおります。

営業利益では、全てのセグメントで減益を見込むことから、全体では439億円(前期比11.1%減)、経常利益につきましても358億円(前期比14.9%減)を見込んでおり、当期純利益につきましても、243億円(前期比3.0%減)を見込んでおります。

営業収益	515,300 百万円	前期比 1.5%減
営業利益	43,900 百万円	前期比 11.1%減
経常利益	35,800 百万円	前期比 14.9%減
当期純利益	24,300 百万円	前期比 3.0%減

※上記の見通しは、4月の決算発表時点で得られた情報に基づいて算定しております。従って、実際の業績は状況の変化などにより、記載の予想とは異なる場合があります。